

表1 政党からの回答

<p>党名 (記入者 敬称略)</p>	<p>【問2】日本政府は核兵器禁止条約に反対しています。貴党は、このことについてどのように考えていますか？</p>	<p>核兵器禁止条約に対する貴党のこれまでの取り組み、今後の方針などについて簡単に述べてください。</p>
<p>自由民主党</p>	<p><回答なし></p>	<p><回答なし></p>
<p>公明党 (浜田昌良)</p>	<p>条約に参加すべき</p>	<p>公明党はこれまで、唯一の戦争被爆国である日本が、核兵器国と非核兵器国との橋渡し役として対話を促し、核軍縮を着実に進展させるよう促してきました。核兵器禁止条約が発効するにあたり、政府には、直ちに締約国として参加するのが難しいとしても、オブザーバーとして参加し、広島・長崎での締約国会合あるいは特別会合の招致を含めた積極的な関与を提言しています。同条約がこれまで核軍縮の基軸となってきた核拡散防止条約と補完しあえるものであることを国際社会に示し、これから始まる核廃絶の具体的な方途の議論において合意形成をリードできるよう、党としても積極的な役割を果たしたいと思います。</p>
<p>立憲民主党 (枝野幸男)</p>	<p>どちらとも言えない</p>	<p>核廃絶を求める世界の人々とともに歩み、NPT体制の維持・強化など、実効的な核軍縮・核廃絶につながるよう積極的に取り組むとともに、核兵器禁止条約については、まずは締約国会議にオブザーバー参加することを目指し、中長期的には早期に批准できるよう積極的に努力してまいります。</p>
<p>国民民主党 (佐々木勝視)</p>	<p>政府の態度に反対、条約に参加すべき</p>	<p>日本は唯一の被爆国として、核兵器禁止条約に署名するとともに、核保有国と非保有国の間の橋渡しの役割を果たすべき。</p>
<p>日本共産党 (志位和夫)</p>	<p>政府の態度に反対、条約に参加すべき</p>	<p>2017年の核兵器禁止条約の国連会議に、私も含めた代表団が2度にわたって参加し、条約成立のために力を尽くしました。国会でも地方議会でも、政府は条約に参加し、被爆国の責任を果たせ、と訴えてきました。被爆者の援助を明記したこの条約をふまえ、国家保障の被爆者援護を速やかに実現すべきです。皆さんとも力を合わせて、草の根から世論と運動を発展させるとともに、一刻も早く野党連合政権を実現し、禁止条約の署名と批准を実現したいと決意しています。</p>
<p>社会民主党 (増田浩司)</p>	<p>政府の態度に反対、条約に参加すべき</p>	<p>「核絶対否定」のもと、核と人類は共存できないとの信念から核廃絶運動にとりこんでいます。 原水禁大会や核兵器廃絶1000万署名、ヒバクシャ国際署名にとりこんできています。</p>
<p>日本維新の会 (片山虎之助)</p>	<p>どちらとも言えない</p>	<p>日本は防衛上、米国の核の傘に頼らざるを得ない厳しい状況にある。一方で、唯一の戦争被爆国でもあることから期待されるべき側面を持つ。核兵器禁止条約について署名はできないとしても、締約国会議にオブザーバー参加をすべきである。世界に影響力を行使する機会を放棄すべきではない。国際社会においてポスト核拡散防止条約体制を追求し、核軍縮に向けて新たなテーブルを構築すべきである。</p>
<p>れいわ新選組 (船後靖彦)</p>	<p>政府の態度に反対、条約に参加すべき</p>	<p>れいわ新選組としては、山本太郎代表が、様々な集会において、米国の顔色をうかがって核兵器禁止条約への参加も決断できない状況に対して、「世界で唯一の戦争による被爆国である日本が率先してこの条約に参加し、批准すべき」とのメッセージを発信してまいりました。条約が2021年初頭にも発効する流れになりました。速やかな条約への参加を政府に求めて行く所存です。</p>
<p>NHKから国民を守る党 (政調会長 浜田聡)</p>	<p>政府の態度に賛成</p>	<p>IPPNWのように、医師が主体となって核兵器廃絶を訴える取り組みは素晴らしいと思いますし、1985年にノーベル平和賞に輝いた意義は大きいと思います。貴協議会のように、核兵器に反対する運動に関しては理解をしているつもりですし、敬意を表します。また、今後も同様の訴えをしていくべきであると考えています。 現状では、民主主義とは程遠い政治体制をとっている国が覇権を握ろうと野心を隠さない状況です。まずはそういった国が民主化を進めるか、あるいは自ら核兵器保有に反対を表明するような状況にならないと、全世界の核兵器に関する問題の根本的な解決にはつながらないと考えます。理想は大事ですし、被爆者の方々の悲しみと怒りはもっともです。しかし現実を直視して政策を打ち出し、厳しい国際社会を生き抜くことがより大事であると私は考えます。</p>